

## (11) 書写教育研究会

会 長 山本 博一 (中村西中)  
副会長 山沖 美保 (下田中)  
事務局 大原 景子 (東山小)

1. 研究主題 「教育活動に活かせる書写教育」

### 2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和3年 8月6日(金)	四万十市教育研究会 夏季研修会 内容：小筆でスキルアップ ～学校現場編～ 講師：小花 典明 (前 四万十市教育研究所所長)	東山小学校	14名参加

### 3. 今年度の取り組み

今年度も「教育活動に活かせる書写教育」というテーマを設定し、講師はこれまでもお世話になっている小花 典明先生にお願いした。計画を立てる際、「表彰状に字を書けるようになりたい」という希望があり、夏季研修会では「小筆でスキルアップ～学校現場編～」の研修を行った。身近にある筆ペン(中字)を使っての研修では、軸、全体のバランスを大切にすることに気をつけながら、まずはウォーミングアップとして広告の裏に名前の練習をした後、茶色い厚紙に表彰状を書く練習をした。そして最後は本物の表彰状に書き、会員みんなで鑑賞し合った。



### 4. 今年度の成果と課題

気軽に使用できる筆ペンを使用し、広告の裏を使って練習することで、気負いなく、楽しんで書に向かうことができた。また、表彰状に文章・名前を書く経験ができ、学校現場で表彰状等に字を書く場面に生かしていけると感じた。

筆を使っての書は、1回の研修会の中だけですぐに上達できるものではないが、これからも「書を楽しむ」という気持ちを忘れず、日々の生活の中で筆を執る場面を増やしていき、学校現場での書写教育活動に生かしていきたい。

<小花先生より>

- ・軸、リズム感、強弱、全体のバランスを意識して書く。
- ・模倣を意識しすぎると味がなくなるので、字体を気にせず、自分の癖を長所に思い切りよく書く。
- ・表彰状は子どもの顔を思い浮かべながら書く。
- ・台紙に基準になる線をえんぴつで下書きしておく。(用紙の真ん中に線を書き、行数を考えて左右に必要な線を書いておく。)
- ・向上のポイントは時間があれば筆を執って書く、見る、イメージすること。

<感想>

- ・どんなに書いてもほめてもらえて嬉しかった。
- ・一字一字よりも全体のバランスが大切であると感じた。自分の癖を客観的に見られた。
- ・何年か書写教育研究会を続けて、自分の学校でも、形にとらわれず、紙コップに墨を入れてパッとかけるようになった。
- ・筆を押し付けて書いてみようと思つて工夫して書けた。
- ・少々失敗しても、書き終わってみたら良いな、という達成感があつた。
- ・ひらがなが上手く書けないけど、嫌になるのではなく、もっと練習したいなと思えた。
- ・字を書くのが楽しく、自分なりの字をこれから書いていきたいと思った。
- ・表彰状の名前を書けるようになったら良いなと思ひ研修会に臨んだが、文章まで書く経験ができて良かった。何かの機会に書いていきたい。

